



INGING
MOTORSPORT®

2009 Formula Nippon CERUMO/INGING Race Report 第7戦 オートポリス

◆ 8月29日(土) Knock Out Qualify

公式予選総合結果

#48 立川 祐路 13位 (1分34秒463/ Q1)

< フリー走行 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

本年度の全日本フォーミュラ・ニッポン選手権も残り2戦の終盤戦に突入した。ここオートポリスでの大会は2006年以来3年ぶりの九州イベントとなり、その再開を歓迎するかの様にサーキットは晴天での予選日を迎えた。前回のオートポリス大会でINGINGは予選2番手を獲得しているだけに、過去の経験を生かしたいところではある。そのデータは本年度より投入されたニューマシンFN09へどれほどフィードバックされるのであろうか。ここ2戦で連続ポイントを得ているだけに、今大会での躍進も期待される。

セッション開始時の気温は24℃。一斉に全車コースインして行く中、立川はゆっくりと最後尾からのコースイン。まずはユーズドタイヤを使いセッティングを詰めていく。1周すると続々とピットへ戻るマシンが多いのだが、立川は連続走行を決めて基本セットの確認を行った。その後ピットインを繰り返して細部を微調整するごとに確実にタイムを上げ、ユーズドタイヤでありながら1分35秒台での周回を続けた。セッションは残り7分、他チームに先駆けてフレッシュタイヤを装着し予選アタックシミュレーションに入った立川は、1分34秒前半を記録しこの時点で6番手のタイムであったのだが、この後続々とコースレコードを塗り替える選手が続出し、フリー走行は11番手での終了となった。

< ノックアウト式 公式予選 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

昼食時のピットウォーク時には少し日も陰り風も出てきてはいたのだが、ノックアウト式予選開始直前から天候は回復し、気温も28℃を超えて真夏の暑さを取り戻していた。午前中のセッションで不快な車体のロール感に悩まされているという立川のコメントのもとに、チームは午後のこの気温に合わせたマシンを作りあげていた。

予選Q1セッションでは確実に11番手に入り、その後のQ2セッションへと繋げなければいけない。立川はまず午前中に使用したユーズドタイヤでピットを後にする。すかさず1分35秒台に入れてピットへ戻ると立川はスタッフにマシンの状況を伝えた。

セッション残り5分を切ると、フレッシュタイヤが装着されたマシンたちがコースへとなだれ込みタイムアタックを開始する。立川もフレッシュタイヤに交換、リヤサスペンションのセッティングを変更し、僅か3周分だけのガス補給にてタイムアタックへと向かう。そしてコースイン2周目のタイム計測周、オートポリスを三つに分けての各セクタータイムは、午前のフリー走行のベストタイムを上回ってきている。セクター1、セクター2とタイムアップし、1分33秒台が確実と思われた。しかし、後半のテクニカルな上りセクションのセクター3でタイムが伸びない。記録したラップタイムは、午前のフリー走行に及ばない1'34.463で計測終了となってしまった。

13番手でのQ1予選ノックアウト。明日の決勝レースは、望んでいたものとは真逆の位置からスタートとすることとなった。

ドライバー／立川 祐路

「オーバーステアだね。これからミーティングを始めるけど、このウィークの予想外の流れを止める方法は必ずあるはずだから、ちょっと皆で相談してみるよ。明日は必ず良い方向でレースできると思うよ。」

監督／竹内 浩典

「大きなステップアップを狙った結果が裏目に出てしまいました。やはり新しい試みには相反する場面もありましたね。チームは良い経験を積んでいます。進化の途中ということなので、明日の決勝レースを楽しみにしてください。」

